

# 国語科

前坂 馨

松原 美佳

橋本 正恵

助言者 折川 司（金沢大学）

## 1. はじめに

Society5.0 の実現を図る上で、創造的問題解決能力の育成が重視されている。この能力は生活の中での様々な場で育成することが可能であるが、学校教育においては主に「総合的な学習の時間」のような機会に効果的に高めていくことができる。

「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」（平成 29 年告示）に示されている「探究的な学習における生徒の学習の姿」（図 1）には、探究の過程が「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の 4 ステップに整理されている。学習を進める中で、考えが広がったり深まったり、あるいは課題が更新され新たな課題を解決しようと学習に取り組むといった過程が繰り返される構造になっている。

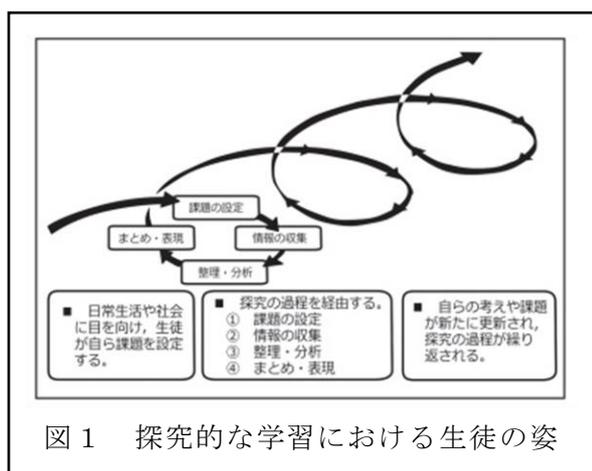


図 1 探究的な学習における生徒の姿

学習過程	(1) 指導事項			(2) 言語活動例		
	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年
書くこと	題材の設定	ア	ア	ア	アイウ	アイウ
	情報の収集				アイウ	アイウ
	内容の検討				アイウ	アイウ
	構成の検討	イ	イ	イ	アイウ	アイウ
	考えの形成	ウ	ウ	ウ	アイウ	アイウ
	記述				アイウ	アイウ
	推敲	エ	エ	エ	アイウ	アイウ
共有	オ	オ	オ	アイウ	アイウ	

図 2 「書くこと」領域の構成

表 1 「総合的な学習の時間」と「書くこと」領域の類似点

	総合的な学習の時間	学習過程	「書くこと」		
	探究の過程		第1学年	第2学年	第3学年
課題の設定	①日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見つけ	題材の設定	日常生活の中から集める	社会生活の中から集める	
情報の収集	②そこにある具体的な問題について情報を収集し、	情報の収集 内容の検討	集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする	多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする	集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にする
整理・分析	③その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み	構成の検討	段落の役割などを意識する	段落相互の関係などを明確にする	論理の展開などを考える多様な読み手を説得できるようにすること
まとめ・表現	④明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、	考えの形成 記述	根拠を明確にしながら、説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりする	根拠が自分の考えを支える上で適切かどうかを考えながら説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりする	表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなどして記述する
		推敲	表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめる	表現の効果などを確かめる	目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめる
	そこからまた新たな課題を見つけ、更なる問題の解決を始める	共有	読み手からの助言などを踏まえて、自分が書いた文章のよい点や改善点を書き手自身が見いだす。よい点や改善点を見いだす視点として、	表現の工夫とその効果など	論理の展開など

「書くこと」領域の学習過程は、「題材の設定・情報の収集・内容の検討」「構成の検討」「考えの形成・記述」「推敲」「共有」の5ステップから成る。これらは、表1に示したように4ステップからなる探究の過程と類似している。「書くこと」も「総合的な学習の時間」も、題材・課題の設定→情報の収集→構成の検討あるいは整理・分析→記述・表現といった学習活動を発展的に繰り返していく。「書くこと」の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっており、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることが基本となっている。例えば「題材の設定」では、日常生活から社会生活の中へと発達の段階に応じて題材を決める範囲を広げている。「情報の収集・内容の検討」では、情報の収集量が増加するだけでなく、収集方法も多様化する。「総合的な学習の時間」においては、学年ごとの明確な指導事項は示されていないものの図1に示したように、国語科の学習と同じように螺旋的・反復的に繰り返しながら学習を進めていく。この点でも「総合的な学習の時間」には、「書くこと」との共通点があると言ってよいだろう。したがって「書くこと」領域の学習は、「国語科」という教科学習の中で必要に応じて総合的に活用する「探究の過程」を経験することだと分かる。このことは見方を変えると、「総合的な学習の時間」における学びの経験は、「書くこと」領域の学習プロセス及び、国語科の見方・考え方を強化することにも結び付いているとも言える。つまり、国語科の「書くこと」と「総合的な学習の時間」は、双方が探究のプロセスを抱え込んでおり、一見無関係なレールの上でありながら、実は補完的に機能していると言える。「総合的な学習の時間」の中で、国語科の見方・考え方を活用する場面は増大し、その資質・能力は洗練され緻密化されより高度なものになっていく。したがって、国語科の学習において、国語科の見方・考え方を意図的・計画的に育成していかなければならない。

## 2. 探究的な活動（創造デザイン科）との関わりについて

### (1) 探究的な活動に生かされると考える資質・能力について

Society5.0の実現を目指す中、学校教育では、既存の型にとらわれないアイデアを見出し、新たな仕事を生み出すなど、自ら道を切り拓くことができるような資質・能力を育成することが求められている。本校は、令和3年文部科学省の研究開発制度により「創造デザイン科」を新設し、実践を進めてきた。Society5.0以降の社会において新たな価値を創造する資質・能力（表2）のうち、「デザイン思考」と「書くこと」領域との親和性が高いことが分かった。さらに、この「デザイン思考」は、深い学びの実現において「見方・考え方」を自在に働かせる手法として有効であるといえる。

また、先に述べたように「総合的な学習の時間」と「書くこと」領域の指導事項に類似点が見ら

表2 新たな価値を創造する資質・能力とその定義

新たな価値を創造する資質・能力	定義
1 創造に関する基礎的な知識・技能	創造やイノベーションの定義、マインドマップ、ブレインストーミングなど、新しく価値あるものを生み出すことに関する基礎的な知識・技能。
2 デザイン思考	問題解決の思考法の一つ。対象とする問題を解決するために、認識されていない内なる課題を見出し、発散的思考と収束的思考を繰り返すことで、設定した課題を解決するための最適な手立てを考えていく思考法。
3 イノベーターのマインドセット	「既存の考えに捉われることなく、斬新な発想を歓迎し、失敗してもいいからひとまずやってみる。」「自分には、周囲の世界を変える力がある。自分には、何かを生み出し、実行する力がある。」など、イノベーターが有している態度。

れることから、今年度本校国語科部会では「書くこと」が学習目標の一つとなる単元を計画し、「書くこと」を言語活動の中心に据えた実践に取り組むこととした。「書くこと」領域の中でも、「情報の収集」の過程に重点を置き実践を進めることに決めた。多くの情報を集め、それらの中から必要な情報を取捨選択したり、それらを相手の立場から情報の整理・発信の仕方を工夫したりする。あるいは、他者に自分の考えを伝えるために、複数の観点から分析し、適切な根拠を吟味する。このような学習過程はもちろん、学習そのものに喜びを持たせたい。さらに、国語科の学びは「総合的な学習の時間」だけでなく、全ての教科と往還し支えており、「学ぶこと」そのものに価値を見いだせるような生徒の育成を目指す。

## (2) 探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力を育成するための手立て

### ① 1年生

本プロジェクトでは、教材「項目を立てて書こう」での学習を基とする。この教材では、「何を」「何のために」「誰に」伝えるのかを明確にすることにより、情報を整理していく学習を行う。その後、この学習を基盤とし、学校で行われる行事への案内状を作成する。対象は親や兄弟等の家族と限られることになるが、実際にその案内状を渡すことまで行うことにより、相手のことを考え分かりやすく伝えることを意識させたい。

文章を書く際に、あるいは案内状を作成する際に必要な意識は「相手目線に立つ」ということである。「書く」ことにおいては当然意識すべきことではあるが、生徒の中でその意識が強く保たれているとは考えづらい。そこで、アンケートを通して生徒の実態を探ると共に、本学習で相手意識を培っていきたい。読者である相手がどんなことを考え、求め、感じているのか考察する「共感性」というものを意識させていきたい。

また、学習を進めるにあたり、生徒が自ら進んで課題を見つけ改善するようしていきたい。案内状を作成するにあたっては、「情報の収集」及び「収集した情報の整理・分析」が必要となってくる。「情報の収集」では、社会にある様々な案内状やポスターを調べることとなる。その過程で案内状を作成する際に書かれる情報を学習することができる。そうして得た情報を「整理・分析」することで多くの工夫点を見て取ることができるだろう。それらを基に案内状の作成にあたるのだが、この時に相手を強く意識させていく。数ある情報の中から、「相手が求めている情報は何か」「相手が強く関心をもっていることは何か」という観点をもとに、案内状に取り入れさせる。それは工夫点も同様であり、自分がしてみたいことをするのではなく、あくまでも対象のために工夫するという考えさせていく。

さらに、完成した案内状を発表し、交流することで自分では気づかなかつた観点を知ることにも可能である。周囲のものと比較したり、他者の意見も聞いたりすることで、より深い学びとしていきたい。

### ② 2年生

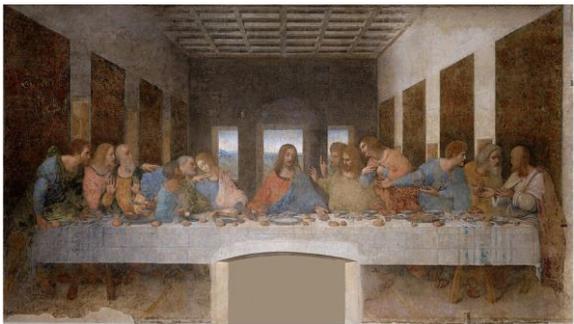
画家「レオナルド・ダ・ヴィンチ」は、絵画に興味がなくとも聞いたことのある画家の1人であろう。レオナルド・ダ・ヴィンチの代表作の1つに『最後の晚餐』がある。この作品の素晴らしさについて解剖学、遠近法、明暗法の3つの観点から、具体例や図などを示してわかりやすく論じられているのが、「君は『最後の晚餐』を知っているか」である。

これまで生徒は、相手が理解しやすいように説明するためには、具体的な情報を示すことが大

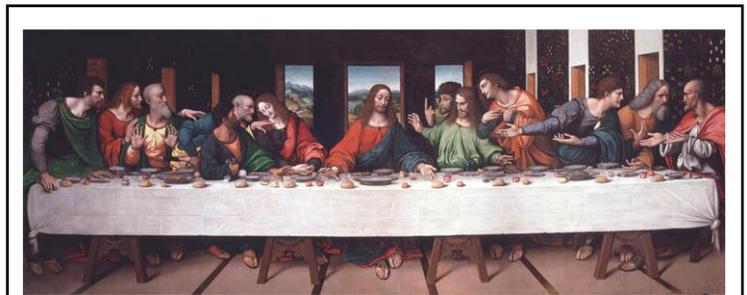
切であることを学んでいる。また、主張に説得力を持たせるためには、根拠の適切さを吟味し、意見と根拠のつながりを明確にして論を展開することが有効であることについても学習している。本教材は、観点を明確にして述べることで、『最後の晚餐』の魅力を効果的に読み手へ伝えている。さらに、「～（な）のだ」という断定的な文末表現が、読み手を絵画の世界へ引き込んでいく。以上のことから、本教材は、読み手を意識して具体的な根拠を提示し、自分が感じたことを文章にまとめるのに適しているといえる。

そこで本単元では、まず筆者はレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晚餐」について。「解剖学」「遠近法」「明暗法」の三つの観点から作品の魅力を語っていることを、読みとる。そして、レオナルド・ダ・ヴィンチだけでなく、その弟子であるジャン・ピエトリノの模写、ルーベンスやガウディンツィオ・フェラーリら複数の作者が描いた「最後の晚餐」の中から、自分が魅力を感じる「最後の晚餐」を1つ決めさせる。三つの観点だけでなく、色彩・タッチ・素材、あるいは宗教画としての描き方といった観点から、選んだ作者とは別の作者による作品と比較しながら鑑賞をさせ、選んだ作品の魅力を評論文としてまとめさせたい。

本単元を通じて、自己の感受性と向き合い、比較することで多面的・多角的な見方ができるようになり、作品の魅力を伝えるために他者を意識して観点を絞り、的確な根拠を示すことが、社会のあらゆる場面で活用できそうだということに気づく一助としたい。



レオナルド・ダ・ヴィンチ作



ジャン・ピエトリノ作

1年 単元名「項目を立てて考えよう」 単元計画（4時間）

次	時	学習内容・ねらい（■）主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3観点【 】指導上の留意点（・）
1	1	<p>■「お知らせ」や「ポスター」を見て、どのようなことが書かれているか考える。</p> <p>①「どのような情報が書かれているのか考える。」</p>	<p>・単元の最後に案内状を書くことを伝えたいので、身近なお知らせやポスターにどんなことが書かれているか考えさせる。</p>
	2	<p>■「お知らせ」や「ポスター」にはどのような工夫がされているか考える。</p>	<p>・書かれている情報や工夫点について、なぜその情報をのせ、そんな工夫をしたのかを考えさせる。</p> <p>○見つけた情報や工夫点を使った目的がなにかを考え、自分が作る案内状にも取り入れようとしている。【態】</p>
	3	<p>■案内状を作成する。</p> <p>①掲載する情報や工夫するところを「相手意識」をもとに考える。</p> <p>②「柏樹タイム発表会」の案内状を、それぞれの保護者の方へ向けて書く。</p>	<p>○比較や分類、関連付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。【知】</p>
	4	<p>■意見交流する。</p> <p>①互いの良いところや改善点を話し合う。</p> <p>②クラスメートからの意見をもとに、より良いものを目指して案内状を仕上げる。</p>	<p>○「書くこと」において、目的や意図に応じて集めた材料を整理し、案内状を書くことができる。【思】</p>

次	時	学習内容・ねらい（■）主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3観点【 】指導上の留意点（・）
1	1	<p>■単元の学習計画を知り，学習課題をつかむ。</p> <p>①「最後の晩餐」知っていることを発表する。</p> <p>②通読し，文章の内容や構成を理解する。</p>	○意見と根拠，情報と情報との関係について理解している。【知】
	2	<p>■筆者が述べる「最後の晩餐」の魅力をまとめる。</p> <p>①「解剖学」「遠近法」「明暗法」について，情報を整理する。</p> <p>②筆者の感動が最も表れている表現を探し，魅力をまとめる。</p>	○「読むこと」において，観点を明確にして文章を比較するなどし，文章の構成や論理の展開，表現の効果について考えている。【思】
2	3	<p>■他の作者によって描かれた「最後の晩餐」を1つ取り上げ，その魅力について観点を絞って分析する。</p> <p>①「色彩」「タッチ」「素材」など鑑賞の観点から，作品を分析する。</p> <p>②ダ・ビンチの作品と比較し，自分が魅力を感じる作品を決める。</p>	<p>○「書くこと」において，多様な方法で集めた材料を整理し，伝えたいことを明確にしている。【思】</p> <p>○自分の考えを批評文として書くための材料を集め，観点別に分析し，自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。【態】</p>
	4	<p>■反論を想定した総括型で，評論文を書く。</p> <p>①意見文の構成について理解する。</p> <p>②作品を鑑賞する観点を絞り，構成メモを作る。</p> <p>③②を基に，評論文にまとめる。</p>	○「書くこと」において，根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり，表現の効果を考えて描写したりするなど，自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。【思】
	5	<p>■グループで読み合い，感想を交流する。</p>	○「読むこと」において，文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりしている。【思】